

(別記)

岩倉市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域における水田面積に占める主食用米作付面積の割合は約70%となっている。また、不作付水田や大豆の作付に適さない水田には飼料用米の栽培やレンゲ、コスモス等の景観形成作物の栽培を推進しているが、未だ自己保全管理や調整水田の割合が多く、十分な土地利用が行われていない現状にある。

昭和39年度から土地改良事業が開始され、現在では予定された610.2haの全受益面積で工事が完了し、大型機械での耕作が可能な優良農地は確保されているが、当該地域においては兼業農家の世帯が多いこともあり、担い手への農地集積割合が約28%となっており、今後も農地の集積を推進していく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の需要が減少していくなかで、生産数量目標の目安を勘案し、的確に実需者のニーズをつかんだ作付・販売計画の策定を行うことに加え、消費者団体との連携強化を図り、供給過多にならないように作付けを行っていく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要低下に伴う、飼料用米の作付面積の拡大が予想される中で、飼料用米多収品種の使用による主食用品種との交雑を防ぐため、主食用品種を用いて作付けを行う。

イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設を利用し取り組める転作作物として、平成25年度から取り組みを始めた。今後も現行と同程度の面積を維持していくよう取り組んでいく。

(3) 大豆

作付されている大豆は自家消費用として主に取り組んでいき、面積に関しては現状を維持していく。

(4) 高収益作物（野菜等）

「サトイモ」、「カリフラワー」、「ネギ」、「キュウリ」、「カボチャ」等を振興品目として位置づけ、適切な肥培管理を推進し、品質向上を推進していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	121.6	121.6	121.0
飼料用米	20.6	21.6	22.2
米粉用米	—	—	—
新市場開拓用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	2.1	2.1	2.1
麦	—	—	—
大豆	0.4	0.4	0.4
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他	8.9	7.9	7.6
地域振興作物			
野菜	3.3	3.4	3.5
果樹	0.3	0.3	0.3
景観形成作物	5.3	4.2	3.8

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	飼料用米	飼料用米に対する 取組	作付面積	(29 年度) 20.6 ha	(32 年度) 22.2 ha
2	高収益作物 (野菜)	高収益作物に対する 取組	作付面積	(29 年度) 21a	(32 年度) 41a

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり